

■会長/加藤明博 ■幹事/川村総一郎

◆司会=岩波寿亮副 SAA

◆ゲストビジター=システムカンタービレ・小林弘樹様

◆出席報告

本日	64.00%	18名欠席
前回訂正	80.00%	10名欠席

◆ラッキーナンバー=No.1 飯田兼光君

◆ニコニコボックス=●加藤明博君・川村総一郎君=本日の例会担当の職業奉仕委員会の皆さん宜しくお願ひ致します。

●朝倉英仁君・飯田兼光君=本日職業奉仕委員会の担当です。講師の小林様宜しくお願ひ致します。●飯田兼光君=ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・加藤明博君=諏訪日赤病院は 100 年、古屋会員フェリスクレールは 50 年、河西会員の鶴さんは何と 150 年と事業を継承されています。本日は物事を永く続けるコツについてお話をしたいと思います。私は今日から週二日は禁酒をしようとか、明日からダイエットをするぞとか、毎日 3 キロはウォーキングをしようとか、あらゆる事に挑戦をしてみました。どれも出来た事はありませんでした。週二日の禁酒なんかは、夜中に前が覚めてしまい、深夜に深酒をしたことにより翌日酷い二日酔いに悩まされ、毎日 3 キロのウォーキングでは、初日酷い筋肉痛となり断念し、どれもこれも三日坊主で終わってしまいました。しかし自己弁護ではありませんが、三日坊主は決して悪い事ではないと思います。なぜなら、思っているだけで、何も始めない人よりもはるかによいのでないかと思うからです。私の経験で言えることは、物事を長く続けるコツは、目標に必ずや絶対と言う言葉を使わない事ではないか思います。必ずや絶対という言葉が付くだけで、全てが苦痛になってしまうからです。少し続けながら、馴れてきたらハードルを上げて行く。

こんなやり方が、物事を長く続けるコツではないかと思いません。朝は夜になり、今日は明日になり、未来は一瞬で過去になります。この様に早い流れで、世の中が変わりゆく中において、諏訪日赤病院、フェリスクレール、鶴さんなどか事業を継承していること心から敬服します。これからも末永く事業継承を続けて頂けたらと思います。

◆幹事報告・川村総一郎君=①本日の例会はクラブフォーラム「職業奉仕月間」です。職業奉仕月間は本来 1 月ですが、今までの例会の都合上で本日職業奉仕委員会の朝倉委員長、飯田副委員長にお願い致しました。お越しいただいたシステムカンタービレの小林弘樹様、卓話宜しくお願ひ致します。

②1月のロータリーレートは1ドルあたり130円です。

③本日例会終了後、定例理事会を開催いたします。

◆委嘱状伝達式●小口泰幸君=2600 地区 2023-24 年度会員増強委員会委員にご委嘱



●玉本広人君=同ロータリーアクト小委員会委員ご委嘱

●平林正光君=同ロータリーアクト小委員会委員ご委嘱



◆クラブフォーラム(職業奉仕月間) ●職業奉仕委員会副委員長・飯田兼光君=本日はシステムカンタービレの IT ディレクターでいらっしゃいます、小林弘樹様にご講演を頂きます。小林様は大手 IT メーカーで製造から装置保全、情報システム、管理部門まで幅広く経験され、現在は独立され ICT (情報通信技術) コンサルティング、ICT 教育訓練、システム開発、情報共有環境の構築、ホームページの制作など幅広く手掛けられております。

新型コロナウイルスの影響で、感染拡大防止の観点から、緊急事態宣言が発令されるとともに、外出行動の抑制や 3 密を避けた行動が奨励されるようになり、国民生活や経済活動維持の観点から、これまでデジタル化が進まなかった領域を含め、デジタル活用がいっしょに加速しました。

ロータリーでも始めて Zoom を利用した例会も開催致しました。メンバー皆さんの会社も、既に新しいビジネス環境への対応を進めてこられたと思いますが、改めてデジタルツールの活用も含め情報収集の場として頂きたいと思ひます。

●システムカンタービレ・IT ディレクター小林弘樹様 = 演題「最近の Web 会議の変化について」

現在 54 歳、50 歳を機に県内

の IT 機器メーカーを卒業し今は個人事業として ICT コンサル、教育訓練を行っています。直近の業務では電子情報保存法、関連した教育、環境構築のお手伝いをしております。

はじめに、2020 年 4 月の新型コロナウイルスの感染拡大で、仕事の仕方が大きく変化しました。ソーシャルディスタンス、三密の回避、在宅勤務の推奨によりテレワークが普及し、商談・社内会議ともに Web 会議が当たり前になりました。最近では社員が出勤する様になってから、Web 会議の使い方も変わってきています。「緊急避難措置だから我慢して使う」→「使い方を工夫して、より効果的に使う」→「在宅×出勤(ハイブリッドワーク)の道具として日常的に使う」

テレワークについて、テレワークは「Tele(遠い)」+「Work(働く・仕事)」の造語。(テレフォンは遠い+音の造語) デジタルツールを利用して、時間や場所に縛られない、柔軟な働き方を意味し、在宅勤務や、サテライトオフィス、営業の方はモバイル端末を利用し様々な報告をすることを指します。

社内の会議や情報共有も Web 会議となり、チャットツールも利用されてきています。

会社の電話についても変化があり、従来は会社や部署の代表電話に連絡していましたが、最近では IP 電話が普及し担当の方の携帯電話やスマホへ自動的に転送される仕組みが増えてきています。

他にも社内の情報へのアクセスも大きく変わってきています。以前は会社でしかアクセスできなかったサーバーやシステムに自宅からアクセス可能となっています。お客様サポートもホームページにアクセスしチャットボットに質問を入力する



と回答が表示され、お客様のパソコン画面を共有しながら案内することも可能となってきています。

テレワークの普及状況は2019年当時、東京23区で17.8%、地方8.1%、全国10.3%だったものが、2021年4月以降横ばいに推移し、2022年6月にはそれぞれ50.6%、22.7%、30.6%にまで拡大してきています。

次にテレワークの課題について案内させていただきます。2020年時点では電子化が進んでいない、やり方が分からないといった回答が40%を超えておりましたが、2年後の2022年にはこれらのことが解決し、特に困っていないとの回答が16%を超えている状況です。しかしながら、社内での気軽な相談・報告が困難、コミュニケーション不足やストレスを感じるという方は依然として多いです。

働く上で重視するものについても興味深いアンケート結果が出ています。コロナ前後でテレワークやフレックスタイムなど柔軟な働き方ができることが若い世代に広がり、副業・兼業ができることも重視し会社を選ぶポイントとして考える人が増えています。もう一点注目するポイントとして、重視するものは特にないという回答が50・60歳代でコロナ前後変わらず半分を占めていることに対し、若い世代では働き方を見直してきていることが分かります。

ここまでのまとめです。デジタルツールは人が便利になるために使い道具、道具を使いこなすには「使う機会」「練習」「慣れ」の3つが必要。自分が使えないからといって他の人も使わないとはなりません。他の人がどの様に使っているのか知ることが大切です。ビジネスにおいて知らずに時間が過ぎていくことが最も怖いことです。分からないことは放置せずに「調べて」「聞いて」下さい。新しいもの=優れたものとは捉えず、価値の見極めをすることも大切です。

次に、最近のWeb会議の変化について案内させていただきます。Web会議にはパソコンやタブレット、スマホを使用することが一般的で、会議ツールとしてはZoom、Microsoft Teams、Google Meet、Webexの4つがメインとなっていますので、この4つを揃えておくと取引先との会議においても困ることはないと思います。なお、中国と取引がある場合にはGoogle関連のアプリケーションは全て使用することができませんので、MicrosoftやZoomが必要となります。

会議の種類は「報告・連絡」「アイデア出し」「課題共有・解決」「提案・意思決定」「教育・コーチング」の5つに分類できるものと考えます。従来はこれらを集合でやっていたものをWeb会議やチャットツール等に置換わり、資料についても集合時には紙を配布していたものが、プロジェクターや画面共有が増え、紙の配布がかなり減少されてきています。

また、会議の準備に時間をかけることを嫌がり、準備の手間を減らすためにはどうするかをみんなで考えるようになってきています。特徴的な点として資料共有があります。メールを送付しても相手企業で受信拒否されて受け取れないケースも増えてきていますので、クラウドストレージに資料を置き、そのリンク先を送付できる、Dropbox、Google Drive、OneDriveの活用が進んできています。

もう一つは同時編集です。Web会議ではホワイトボードを使用することができなくなりましたので、1つのファイルを使用しみんなで同時に書き込んでいくようなことが始まっています。

この様にWeb会議が主流になり様々なことをやり始めると不

具合も出てきます。第一がパソコンの性能、資料の作成が中心の時は8GBメモリーで十分でしたが、Web会議での画面共有等を行うとメモリーは16GB、CPUはi5第8世代以降が必要と言われています。Web会議において古いパソコンが1台接続されるだけで、会議全体が遅くなってしまいうることもあります。

第二にネットワーク環境、今までは家から在宅勤務でそれぞれアクセスしていたものが、会社に来て個々のパソコンからアクセスし会社の中のネットワーク負荷が上昇してしまう可能性があります。ネットワーク機器は10年も使うものではなく3~5年で見直しをしていく必要があります。社内資産の棚卸を行い計画的に買い替えていくことが必要だと思います。

ここからは情報提供になります。Web会議の普及で周辺機器が安価になり種類も豊富に出回ってきました。マイク付きカメラは4000円~、スピーカーフォンは9000円~、360°カメラはマイクとスピーカーもついているので中心に置くだけで全員を見ながら会議ができます。こちらは9万円~、高価になりますが、会議の頻度が多い企業では導入が進んでいます。

次に電子黒板(インタラクティブホワイトボード)の導入が増えています。複雑な配線や機器のセッティングが不要で、Web会議に必要なモニター・カメラ・マイク・スピーカーセットになっており、非常に便利です。MAXHUB社の商品は5年保守料込みで100万円~ですが60回リースで月16,000円程度、月に25回会議をした場合1回あたりの費用は640円程度です。最後にリスクマネジメントにつき案内させていただきます。

最近Microsoft等のクラウドサービスの障害が頻繁に発生しています。GAF A等のアメリカの大手IT企業が続々とリストラを発表し人員が大幅に減らされています。従来無料で提供されてきたITツールが突然の終了や、使用料の値上げ、さらには人員削減によるサービスの品質に影響が出る可能性もあります。会社で使用されているサービスの棚卸と危機管理計画の策定を、何か起こる前に実施しておいた方がよいと思います。ITの話は難しいと思われる方も多いと思いますが、少しずつでもよいので情報をインプットしながら、分からないことは色々な人に聞いていくというような習慣をつけていかれるとよいと思います。ご清聴有難うございます。

●**職業奉仕委員長・朝倉英仁君**=本日はWeb会議の変化につき講義を頂きました。私は大学や国交省との会議は殆どWeb会議になっており間違いなく身近なものになってきています。少し過去を振り返りますとWindows98が出た頃に小口会員から「パソコンが出来ないと貧乏になるよ」と言われ、直ぐにパソコンを買って操作を始めました。そこから20年近くが経過し、今ではパソコンが会社経営に欠かせないものとなっております。当時の小口さんのアドバイスに感謝しています。Web会議をされない方もいらっしゃると思いますが、間違いなく必要な社会情勢にもなってきていますので、本日の小林様の講義を参考にして頂ければと思います。

#### ◆今後の例会日程

2/17(金)	クラブフォーラム(平和と紛争予防/紛争解決月間)
2/24(金)	クラブ協議会 ガバナー補佐訪問
3/3(金)	クラブフォーラム(会員卓話)